

(旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査XVII)

百間川遺跡群の通算 17 冊目の発掘調査報告書。

百間川原尾島遺跡は、弥生時代から中世にかけての集落遺跡である。特に弥生時代後期から古墳時代には高い集住性を示し、当地域の拠点的な集落と考えられる。また、他地域との交流を物語る重要な資料として、弥生時代後期から古墳時代初頭の九州や四国産の土器が出土している。

百間川築造に係わる百間川二の荒手遺跡は、越流堤と導流堤の補修状況を確認した。



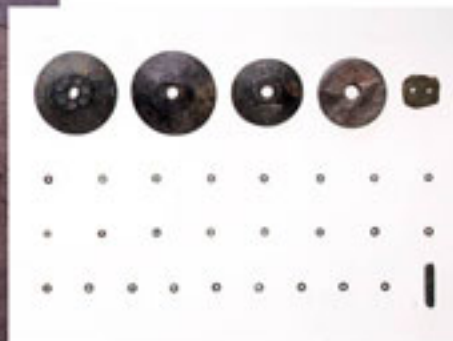
弥生時代の竪穴住居の遺物出土状況



別府湾岸からの搬入土器



古墳時代の竪穴住居



古墳時代の滑石製品ほか